

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491400053		
法人名	株式会社キタイセ		
事業所名	グループホームあおい		
所在地	いなべ市大安町大井田2836		
自己評価作成日	令和1年.7月.25日	評価結果市町提出日	令和元年9月

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;Ji_gyosyoCd=2491400053-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;Ji_gyosyoCd=2491400053-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 1 年 8 月 9 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年間行事として利用者さんが楽しみにされていることは、陸奥部屋力士慰問交流会と、演歌歌手のミニコンサート。毎年恒例で行っている。  
また、自分で外出できない利用者さんでも、できる限り散歩に連れ出したり外出できるように支援している。気軽に外に出られる公園を敷地内に作ってもらいそこで食事をしたりくつろいだりしている。公園の管理、草取り、花壇の手入れなども利用者とともにしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

人生経験豊かな職員が多く、利用者が日々快適に安心して暮せるように配慮している。管理者を始め職員は理念にある自由と意志を尊重し、自立を助けその人らしい生活がおくれるよう努めている。少しでも日々楽しく暮して貰おうと時間の許す限り話し相手になったり、一緒に出かけたりする努力をしている。どこの事業所も人手不足から中々、それが出来ないのが現状である。しかし、もっと多くの時間を利用者との個別の時間を過ごしたいという意志が職員の意見から感じられるような職員が多い事業所である。出来る事は取り上げないで利用者と一緒にするという事も大事な事で、一緒に食事を作り、職員も一緒に食事をすることは何よりも楽しい時間になっている。それにより、お互い親密な関係も作られている。また、重度化の防止にも役立っている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念の唱和で一日が始まる。理念を実践していけるよう週替わりで目標として下の部分を読む。	理念は「一人ひとりの自由と意思を尊重、自立を助けその人らしい生活がおくれるよう努める。介護技術の向上に努め、明るく笑顔で接する。」で、その人らしい生きがいに繋がる出来る事を見つけるように日々の情報共有を職員はしている。安全を考慮した上で利用者が出来る料理、草取りなどを職員としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の掃除は参加している。日常的ではないが大安中の職業体験の受け入れをしたり、吹奏楽の演奏にきてもらったりしている。お祭りなどはやはり難しく、参加出来ない。	事業所の周囲に民家が少なく日常的な交流は少ないが、利用者の家族が作った野菜の差し入れがあったり、大安中学からの職業体験や介護実習の生徒も受け入れている。自治会長からは地域の情報も多く可能なものには参加もしている。地域のごみ拾いや空き缶拾いにも利用者が参加した。毎年、陸奥部屋の力士慰問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は認知症サポーター講座も行ったが、最近では行ってない。活かせるようにしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議でグループホームの活動報告を毎回行って理解を深めてきた。様々な意見やアドバイスをいただいている。	2ヶ月に1回開催しており、自治会長や民生委員、行政や包括からの参加がある。毎回ではないが、年に1回はまとめてヒヤリハットも報告している。避難訓練にも参加した意見から砂利道の整備やセンサーライトの設置の検討にも繋がった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回、推進会議にも出席してもらい、わからないことは聞くようにしたり、行事へのお誘いなど行っている。	身体拘束委員会の創設を相談し、詳しい説明や資料をもらい実施する事が可能になった。行政への認知症サポーターの講習場所を事業所が提供したり、力士慰問に参加いただいたりとお互いの協力関係もある。員弁市のSOSネットワークの登録があった新規入居者の継続も検討して貰いそのまま継続を可能にしてもらった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止適正委員会を作り、委員会、ミニ研修を行っている。	開業以来、身体拘束をしたことは無い。3ヶ月に1回拘束委員会を開いて、研修したり記録も残している。安全のため玄関の終日ロックと窓の開放は全開出来ないようになっている。スピーチロックもない様に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での虐待は見過ごされないように注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度に関しては、未だ活用していない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては前もって契約書を熟読してもらい、説明をして契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様とは、来所される以外にもラインやメールで意見交換しており、要望など気軽に聞くこともでき、運営にも反映させている。利用者さんは利用者会議をオヤツ時間に設けて意見を聞くようにした。	外出する時には利用者が行きたいところを聴いてから出かけている。入浴も浴槽にのんびり浸かりたいとかトリートメントをしたいとかの意見を叶えている。髪の手入れは訪問美容師がするが、希望がある利用者には毛染めもする。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内で話し合ったことや提案などは、管理者が会議に持って行き代表者に伝えている。	毎日、朝の申し送りで30分意見交換をしている。また、代表者も参加する月1回の管理者会議に職員の意見も伝えている。職員の意見でリハビリパットの使用で自力排泄の努力もしている。個別の利用者の居室に手すりを設置したこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別評価、賞与査定など行ったり、職員の細かい部分も代表者に伝えるようにして、職員の状況を把握してもらい、そのうえで各々やりがいを感じて勤務できるような環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	奨励しているが、勤務が多忙でなかなかできていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなかできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者さんがデイや、ショートなど利用をされている場合は、そちらにも伺い、どんな状況かを見ようとしている。そちらでも困っていることや心配なことなどをお聞きしてどう解決につなげるか話し合い、入居を決めてもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者さんのそれまでの生活、家族さんの困っていることなどお聞きして、今後の支援につなげるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者さんのそれまでの生活を理解するために、必ず自宅訪問を行い今後の支援につなげるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームではこうありたいと思っているがとても難しい、課題です。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できる限り来ていただき施設と家族様とで本人を支えていこうと考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できればお願いしているが、途切れてしまうことがほとんど	利用者の住んでいた環境を把握するために、管理者が入居前に自宅訪問している。友人の来訪もあるが、少なくなってきた。利用者が飼っていた犬を預けたところに利用者と会いに行ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は把握しており、仲良く支えあっていけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してからのお付き合いはなかなか難しい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人さんに考える力のある場合はお話を聞き希望など聞くようにしているが、困難なかたでも長年のお付き合いからも何がしたいのかわかる範囲ではご本人本位に支援させていただいている。	居室のベッド・家具・テレビの配置やデコレーションに利用者の意向が反映している。希望や意向を主張できる利用者の意見に沿う努力をしている。困難な利用者の感情も汲み取る努力をし、外出の頻度を多くする事など介護計画にも記入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問して、今までの生活を見て理解してこれからの生活を考えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり全部違うので、10人ひとからげではいけない、個々に沿った1日の過ごし方をできる限りしていただけるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員用の利用者ファイルを作り利用者さんの変化に応じて特別な記録を書いてもらい情報共有している。その結果によってその人その人に必要な介護ができるようにし、介護計画の作成に反映している。	介護計画作成の中心は2人の職員が1人の利用者を担当する担当制であるが、申し送り時などに全職員の意見を参考に全職員で日々の暮らしを支援している。	介護計画は利用者の希望も反映している。しかし、作られた介護計画書が職員全員でなく一部の職員のみで理解されているのでは、利用者の重度化防止や職員の努力が無駄になる。今後は、職員全員が計画に沿った介護が出来るように個別計画の活用と記録を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特別な状況を把握し、個別に記録し、その結果によってその人その人に必要な介護ができるようにし、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り個々の性格、認知度を理解したうえでその人に合ったサービスを考えているが多機能化とまではいかない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握、そこまではできていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人や家族さんの希望を第一に考えており、内科以外は家族さんが連れて受診されている。普段の健康管理に関しては、施設の主治医で医療を受けている。	内科の主治医が月1回の訪問診療で来所しており、歯科医の訪問診療もある。他科専門医受診は家族が連れて行くが、職員が行く時もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいないが、利用者の必要としている医療を見極める努力をしている。主治医、薬局とはいつでも相談できる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	そうした場合に備えての関係作りまではできていない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りまでしていないことは初めに伝えており、どのようにするかは話し合っている	看取りは行っていない事を了解の上、重度化や終末期の説明を行った上で入居している。現在まで緊急入院や退院後に、看取り可能な他施設や有料老人ホーム、特別養護老人ホームに移った例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に関する訓練は行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っている	災害で特に困難なことは火災を想定している。去年の9/1に火災想定訓練をした。水・食料・オムツは3日分の備蓄がある。員弁市と災害時相互支援協定を交わしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんの人格を尊重した対応をしてゆくように話し合っている	利用者の性格や困難度も違い、一律の声掛けが難しい事もあるのでその人に合わせられる声掛けをする様にしている。管理者は言葉掛けに気がついたことがあれば、その都度職員の指導をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り、希望を聞くようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限りその人その人のペースに合わせた生活を送っていただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度の美容師さんのカットは皆さん喜んでおられ、ヘアカラーは施設でしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理などはできるかたにはしていただき、長年主婦として培った腕前をいかしてもらっている。	食材は業者が配達し、職員と利用者が一緒に作っている。じゃが芋の皮むき、食材のカット、後片付け等を出来る利用者と職員がしている。昼食のみ半調理品が配達される。手作りの誕生日ケーキ、お雛様のちらし寿司、家族との外食、喫茶店でのコーヒータイムも楽しんでいる。一番の楽しみは職員全員と食事することである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別な記録、情報共有しながら利用者さんの健康に気遣っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員歯磨きはしていただき、自分でできない利用者さんには職員がケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人その人にあつた支援を行っている	7人が布パンツで1人がリハビリパンツである。夜間のオムツ使用が1人である。布パンツに拘る事により排泄の自立支援に繋がるといふ信念があり、基本姿勢としてしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり摂取してもらうためなかなか飲まれないかたにも喜んで飲んでいただけるように飲み物を工夫。また食事量の少ない方には食事の形態を考えて少しでも食事の量を増やせるように努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	入浴は一日おきで、午前中と決まっているが、毎日入りたい人は自由。入りたくない人にも強くは言わない。入浴もせかしたりせずにゆっくり入りたい方にはゆっくり、はやくでたいかたにはそのように、それぞれのパターンに合わせている。	1日おきの午前中の中の入浴で、毎日入る事も可能であり希望者にはしている。ゆっくり入りたい利用者を最後にしたりと入浴の配慮もしている。入浴剤や柚子湯で楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜はゆっくり休まれるように6時からリラックスタイムで音楽を聴いて、みなさんも口ずさむように歌詞カードを渡している。部屋に行かれる方も自由にしてもらっている。睡眠中の温度、湿度、布団などの調整、2時間ごとの巡視を行い皆さんの安眠を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員誰もがみられるように、薬の説明書をファイルをして、必要時には読む。薬が変わったときには情報を共有して、体調の変化など特別な記録を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事のできる方には自宅ですつたように調理をしていただいたり草取り、花壇の手入れが得意なかたには一緒に外に行く。また季節の制作物、塗り絵貼り絵はほとんどのかたにさせていただき、出来上がつて飾る楽しみもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	朝の散歩はほとんど毎日している。(短い時間だが)外に連れ出してくださる家族様もあり食事やコーヒーを飲みに行く月に一回はお出かけ支援を心掛けているが、なかなか全部のかたには難しい。	利用者全員が朝の散歩を日課としており、2~3人づつ分かれてしている。普段行けないような場所には、家族同伴で出かけたり、外食・季節ごとの花見に年間行事に基づいて出掛けている。買い物にも職員同伴で出掛けることもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の支援は行っていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい人には家族様の了承を得てかけていただいたり、手紙も自由だが、ほとんど電話をかける人はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気の明るさを調整できるものに交換した。温度湿度なども利用者に合わせて居心地の良いリビングや、居室を工夫している。	居間兼食堂は職員と一緒に食事出来るテーブルが2つ置かれているが、近くにゆったり座りながら職員や利用者同士が会話できるソファも配置している。採光も良い間取りになっているが、天井に調光可能な照明を設置している。明るく開放感のある共用空間で居心地が良い。職員と作ったちぎり絵や七夕飾りが季節を感じさせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者が楽しく過ごせるように利用者の意見を聞きながら席を決めた。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを部屋で見る方や、花を飾ることも自由。お位牌を持参されている方もある。	毎日、フロワイパーで利用者が自室を拭き掃除している。十分な大きさのクローゼットもあり、荷物の収納もされていて整理も行き届いている。それぞれ好みの物を持ち込んでおり、テレビを見たり、筆筒や位牌があつたりとか一律でない個性がある居室で居心地が良く過ごせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物の無い床になっている。		